

平成27年度授業改善推進プラン

清瀬市立清瀬第四中学校第2学年

	学力調査から見えた課題(調査のない教科は授業における課題)	授業改善のための具体策(重点)	成果と課題(年度末)
国語	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着(漢字力・文法力) 文章を深く読み解く力 	<ul style="list-style-type: none"> 小学校配当漢字のテストを毎時間行い、復習する習慣をつける。 視写課題を通して、文章を読み解く力、書く力を養う。 文学的文章を時間をかけて読み、自分の考えを書くことで読み解く力を養う。 	
数学	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的な学習内容の定着 授業に対する積極的な姿勢 数学的な思考、表現力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 授業開始時や課題等で基本的な計算問題の演習に取り組ませ、基本事項の習熟を図る。 生徒が発言したり、解答する機会を多く設定する。机間指導を行いながら生徒の取り組み状況を認めていく。 数学的な思考、表現力を身に付けさせるために以下を取り組んでいく。 ①自分の考えを発表し伝える活動を行う。 ②レポートにより、個に応じて思考の過程や表現力を評価する。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的な学習内容の定着 表現力及び資料活用力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 「振り返り」をより大切にし、前時の確認等復習の場を充実させる。 多様な資料等を活用し、思考・判断したことを「分かりやすく話す・書く」工夫を徹底させる。 	
理科	<p>基本的に関心・意欲が高く、授業中に扱う課題に対してもよい取り組みを行い、力をつけていくことができる集団である。学力調査の結果も、読み取る力を初め、全体を通して都平均を上回っていた。誤答や未回答が多かった問題は、1学年の初期に扱った内容が多く、特に基本的な器具の操作を詳しく覚えていないという課題が見えた。</p>	<p>ルーベ、顕微鏡、双眼実体顕微鏡、メスシリンダー、はかり、ガスバーナー等、1学年の初めに基本操作を学習する器具は、授業の中で繰り返し使用し、操作が身につくよう積極的に実験・観察を取り入れる。また、入試に向け、3学年から既習事項を復習するのではなく、既習事項と関連する内容が出てきたときには、既習事項の確認から授業を組み立てていくなど、効果的に繰り返し復習できる機会を設ける。</p>	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見や演奏を積極的に表現する姿勢 楽譜を読み取る基本的楽典の能力 	<ul style="list-style-type: none"> 表現・発表する機会を多くつくる。 歌詞だけでなく、楽譜をよく読み、楽典の知識を身につける。 	
美術	<ul style="list-style-type: none"> 発想やアイデアを根気よく練り、自分だけの表現につなげていく力の不足。表現と鑑賞を有機的に結びつけて、仲間の作品についても肯定的な視点で捉え、作者の思いを感じ取ろうとする鑑賞力。 感じたこと、考えたこと、鑑賞したことなどを自分の言葉で的確に表現すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 美術を学ぶ意義を多面的に伝え、興味を持てる題材設定を工夫する。また表現・制作の中でも、数分の鑑賞タイムや発表時間を設けるなど、鑑賞の場面のある授業展開にし、表現と鑑賞の相関を意識させる。 制作カードへの記入など言葉で考えることを通して、制作過程の振り返りをより深めさせる。また、完成作品について批評をし合うなど、言語活動を取り入れ、言語能力や鑑賞力の向上を図る。 	
保健体育	<p>(男子)</p> <ul style="list-style-type: none"> 全体的にルーズである。 基礎運動能力が低い。 競争心が低い。 <p>(女子)</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的な運動能力が低い。 集団行動や安全に関する行動及びリーダーを中心とする自主的な活動が身につけていない。 	<p>(男子)</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業規律を整える。 アップ、補強運動、ダッシュ、メイン練習等で運動能力向上を図る。 ゲームを通して向上心、競争心を育てる。 <p>(女子)</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業の補強運動の中に柔軟性、敏捷性、全身持久性の種目中心を取り入れていく。 全体指導とグループ活動の中で、効率よい行動やリーダーや仲間を尊重する態度を育てる。 	
技術・家庭	<ul style="list-style-type: none"> 近年、タブレット端末やスマートフォンの普及により、パソコン特有のマウスやキーボードの操作を経験していない生徒が出てきている。また、情報モラルに対する意識も大きく差があり、SNS上での個人情報の掲載等トラブルも発生している。 バーチャルな世界での体験が多く、実体験が不足している。 (家庭科) 自らの意見や考えた事を発表するのが消極的なことがある。 調理実習等への意欲が低い生徒がいる 	<ul style="list-style-type: none"> キーボードやマウスの操作に慣れるため、できるだけ多くの時間コンピュータを操作するような時間配分にした。 情報に関する内容では、教師用パソコンの画面の一斉転送の機能を利用し、教科書の内容に加えて最新の内容をサイトや動画で紹介して関心を引く工夫をしている。 (家庭科) 発言しやすい形を工夫する。(個人や班として話し合う) 班活動で役割分担をして、個人の活動に責任を果たさせる。また班で振り返りを行う。 	

外国語 (英語)	関心・意欲は高いが、自分の考えや読み取ったことを英語で表すのは苦手である。単語や文法の知識が備わっていても、使いこなすことができていない。	既習事項を用いて、英語で表現する機会を多く設ける。口頭だけではなく、実際に書く事を授業に取り入れたい。	
-------------	---	---	--